

**研究成果展開事業
大学発新産業創出プログラム(START) 大学・エコシステム推進型
スタートアップ・エコシステム形成支援
R4年度補正予算(EDGE-PRIME Initiative)
実施報告書**

「北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク」

活動期間:2023年5月8日～2024年3月31日

I. 活動の概要

本取組では、北海道地域を起点とし、「社会を変える、10年後の世界を担う活躍人材を北海道に育成する」という明確なビジョンを掲げ、スタートアップ・エコシステムの構築を積極的に推進した。北海道の社会課題を解決する新たな価値を創出できるイノベーターを育てるため、特に次の3つの柱に注力した。(図1)

① 支援体制・ネットワーク構築の更なる拡大

北海道庁、札幌市をはじめとした行政機関、道内各地の教育機関、地元企業、スタートアップ企業など多様なステークホルダーと強力なネットワークを構築し、各機関が持つリソースを統合・最適化することで、北海道全域を包括する支援体制を確立した。

② アントレプレナーシップ教育の道内浸透の加速化

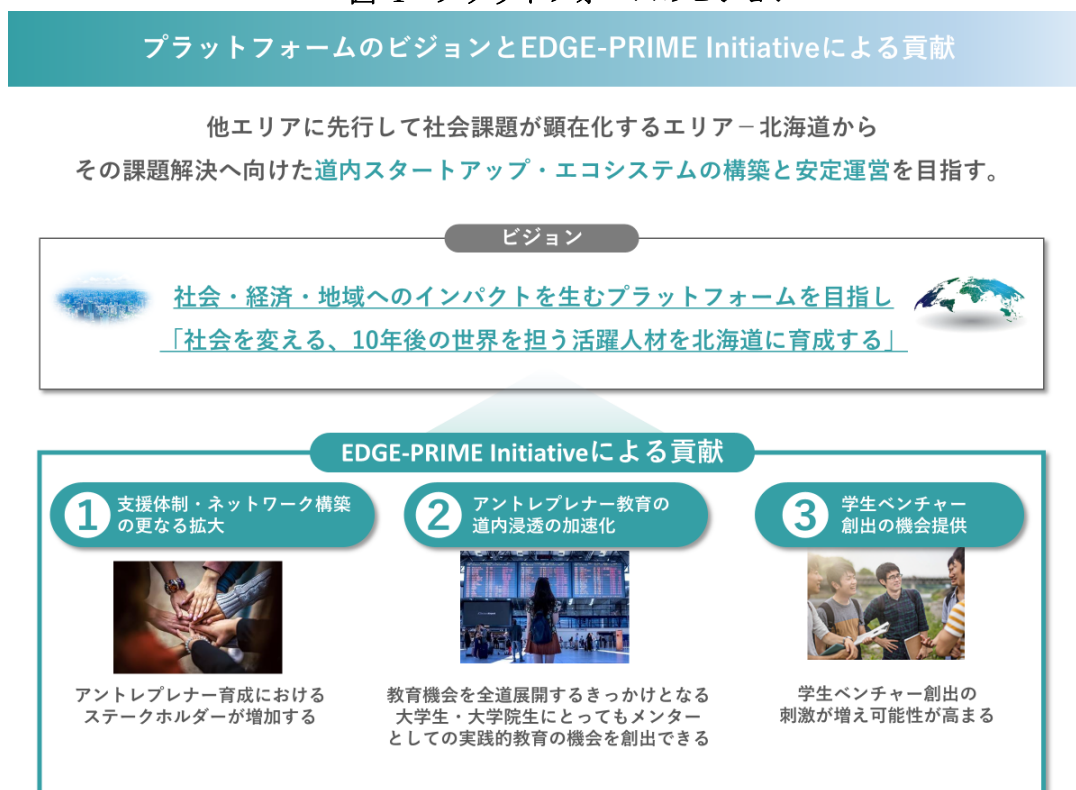
北海道の小中高校生及び大学生を対象とした多様で実践的な教育プログラムを開発・展開し、2023年度だけで延べ約4,600名の受講を実現した。地域ごとに特色あるプログラムを設計・導入したことで、地域課題を自分事として捉えることができる実践的な教育基盤を築いた。

③ 学生ベンチャー創出の機会提供

小中高生向けの初期的なアントレプレナーシップ教育から、具体的なスタートアップ支援やベンチャー創出の支援まで段階的に機会を提供した。起業を志す学生に対しては、メンターシップ制度、ピッチイベント、ビジネスコンテストを通じて実践的な支援を行った。

以上の取組により、北海道地域におけるアントレプレナーシップ教育の認知度向上、実践的な教育の定着、及び継続可能なエコシステムの構築に向けた確かな基盤を整備することができた。次年度以降は、更なる地域連携の深化、オンライン教材・研修の充実、成果検証体制の強化を進め、北海道から全国、さらにはグローバルに影響力を発揮できる人材育成基盤を強化していく計画である。

図 1 プラットフォームのビジョン



Ⅱ. 活動内容と成果

1. スタートアップ・エコシステム形成支援(当初予算)で目指すプラットフォームの姿への本取組による貢献

目指す姿への貢献について、アントレプレナーシップ教育の道内浸透に関しては、年間延べ受講者数を2026年度末までに6,500人とすることを目標に掲げていた。2022年度における受講者数は1,500名弱であったが、2023年度においては、小中高生・大学生等合計で約9,000名(小中高高校生対象は4,600名)と、大幅な増となっていることから、順調にプラットフォーム全体目標に対する貢献ができています。

2. 高校生等へ提供するアントレプレナーシップ教育プログラムの開発・運営

アントレプレナーシップ教育のためのプログレッシブモデルを参考に体験→経験→実践と進むようスムーズにステップアップできるプログラムを構築した。受講者である小中高生が学びを自分事として捉えやすいよう、自身の周辺で発生している社会課題をテーマとして用いた教育プログラム、教材等を開発するなど、北海道地域の特色を活かした教育基盤を組成することができた。2023年度は、56のプログラムを様々な対象に向けて実施することができた。2024年度以降は広範な展開やブラッシュアップを実施していく。(図2)

図2 実施プログラム一例

アントレプレナーシップ教育の加速

56 のプログラムを年間で実施 (2023年度実績)



(1) 主なプログラムの例

① 教材開発

・「起業に必要な能力を身に付けるスタートアップ学習+15」教材の開発

高校生向けの「起業に必要な能力を身に付けるスタートアップ学習+15 ビジネスをつくろうガイドブック」の制作を実施した。加えて、教職員向けの「起業に必要な能力を身に付けるスタートアップ学習+15 ビジネスをつくろう 指導マニュアル」も制作を実施した。(図3)

ビジネスを学ぶ、課題を考えチームをつくる、課題について調べる、課題解決のアイデアを考える、会社や事業の構想を考える、社会を巻き込む働きかけをする、評価を受ける・評価をするといった章立てをし、順番に実施することで起業体験のプロセスを体感できるものである。地域型モデルとして、北海道地域が抱える課題や資料を随所に示し、議論の起点となる構成としている。指導マニュアルでは、現場の教諭が授業に落とし込めるように、授業ごとのポイントや用意するもの、ワークシート、タイムスケジュールなどについて記載されている。

2023年度に制作したガイドブック、指導マニュアルを2024年度は高校の教育現場にて実践することを予定している。

図 3 作成したガイドブックと指導マニュアル



② 越境体験 Future Path プログラム(道内越境型)

・Startup Base U-18

株式会社まつりばと協働し、2Daysの起業体験プログラムであるStartup Baseを函館市、旭川市、苫小牧市の3都市で開催した。函館では近郊6校17名、旭川では道内外22名、苫小牧では高専・高校生21名が参加した。地域起業家や企業、行政との連携を深めつつ、具体的な商品開発・サービス開発のアイデアを生徒自身が考案し、プロトタイプ制作やピッチコンテストを通じて実践的な起業プロセスを体験した。この体験をきっかけに起業についての理解が深まり、アクセラレーションプログラムに参加する高校生が増えるなど一定の効果を示している。

・小中学生向けアントレ教育プログラムアントレクエストの実施

株式会社Armoryが持つ独自の小中高校生向けアントレプレナーシップ教育プログラムを北海道の地域課題に紐付けてローカライズして実施した。

本プログラムは小中学生を対象としたゲーム感覚で起業を体験できる点が一番の特徴であり、プログラムでは地域への理解を深め、地域の魅力を届けるアイデアを考える、そして原価や売値の計算など企業に関連する一連の流れを、RPGのゲームのような感覚で体験することができる。2023年8月8日と11月23日に札幌市、2024年2月17日に旭川市で計3回開催した。各回の定員50名に対して、約270名の応募があり多くの関心を集めた。プログラム参加者は挑戦意欲、継続的な起業についての学習意欲などの向上がアンケート結果から得られた。また、単発のイベントで終わらせず、実際に行動に移すまでをサポートするプログラムであるアントレクエストⅡを継続プログラムとして2023年12月～2024年2月までの3ヶ月間で実施した。アントレクエスト参加者から約20名が参加し、2月18日の最終発表では10チームが3ヶ月間の取組を報告した。

定員を大きく超える申し込み者があったことからアントレプレナーシップに興味関心のある小中学生及びその保護者は一定数いるものの、北海道では教育機会が不足していることが課題である。特に地域毎の開催が望まれており、地域の協働機関や地方自治体との連携を図りながら展開していく必要がある。

・NoMapsイノベーションキャラバン

音更高校、中標津高校、中標津農業高校、ニセコ高校を対象に、NTT東日本と連携したDX・IT教育と地域課題解決型プログラムを提供した。(音更高校延べ465名、中標津高校延べ407名、中標津農業高校延べ205名、ニセコ高校延べ104名が受講)地域課題を主体的に考える機会となり、地域課題解決型のアントレプレナーシップを醸成した。

・高校生の探究学習等を活用したアントレプレナーシップ教育の展開

札幌西高校の2年生に向けた探究学習におけるワークショップや授業のサポートを実施した。月寒高校では、週に1回、1年生に向け、デザインシンキングを活用したアイデア創出プロジェクトを実施、北海道教育委員会が実施する「社会との共創」推進プロジェクトと連携して行った。札幌啓成高校では、2年生に向け、北海道の課題解決アイデア創出プログラムを実施した。

③ 越境体験 Future Path プログラム(海外越境型)

・グローバルアントレプレナーシップ育成プログラム

HelloWorld株式会社と連携し、グローバルアントレプレナーシップ育成を目的とするプログラム「まちなかロゲイニング」)、「アントレまちなか留学」を実施した。

まちなかロゲイニングは株式会社HelloWorldが実施している高校生と外国人留学生でチームを組み、英語で交流しながら会場で出題されるミッションをクリアし、スコアを競うプログラムである。2023年度は、このまちなかロゲイニングにアントレプレナーシップ教育プログラムを掛け合わせることで「アントレまちなかロゲイニング」とし、ミッションの中にアントレプレナーシップやビジネスに関連するものを追加して実施した。募集時点では定員100名を超える164名から申し込みがあり、道内高校生92名(33校)が参加した。またイングリッシュスピーカーとして北海道大学留学生を中心に9カ国、21名が参加した。

まちなか留学は株式会社HelloWorldが実施している日本に住む外国人の家でホームステイをしながら英語で交流し、ホストファミリーの日常を共に過ごすことで文化の違いを理解するプログラムである。2023年度は、このまちなか留学にアントレプレナーシップ教育プログラムを掛け合わせることで「アントレまちなか留学」とし、3泊4日で沖縄県にてプログラムを実施した。100名弱の応募があり、プレゼン動画と小論文により選抜された25名の道内高校生が参加した。礼文高校や帯広柏陽高校など道内各地から参加者が集まった。

(2) 成果・評価

まちなかロゲイニング、探求学習デザインシンキング講義、探求学習アントレ講義を受講した道内32高校の321名のアンケート調査結果より、高校生へのアントレプレナーシップ教育プログラムの介入効果の検討を行った。結果、6割の高校生が参加当初は起業に関心が無かったが、受講後は、変化なしが113名(60%)消極的になったもの4名(2%)起業に対して積極的な考えになったもの70名(37%)であり、アントレプレナーシップ教育の受講により、参加当初の関心段階に関わらず起業意欲が高まることが示唆された。

HSFCにてアントレプレナーシップ教育研究チームを発足し、学術的知見による「効果検証」・「課題特定・改善案の創出」により、次年度以降より効果的・効率的な高校生等アントレプレナーシップ教育の構築を推進していく。2023年度は、査読付き論文3本の執筆、口頭発表2件を実施している。

(3) 今後の展開方針

本年度の成果をもとに教材・プログラムのブラッシュアップを進め、北海道内の広域展開を加速させる。また、教員向けオンライン研修を強化し、各学校が自律的にプログラム運営可能な体制の構築を図る。さらに情報発信を強化し、地域を超えた参加者増を図ることを目指す。

以 上